



令和5年1月号

学校訓「凡事徹底・脚下照顧」

挨拶でみんなの笑顔も 日本一

神崎中だより



愛(ハート)のある町 神崎町

【学校教育目標】「知・徳・体」の調和がとれた未知の状況に対応できる生徒の育成

検索 神崎中

校内書き初め大会 ～書に心を込めて～

1月10日(火)始業式の後に、校内書き初め大会(1・2年生)を体育館で行いました。生徒たちは、1文字1文字丁寧に「書に心を込めて」取り組むことができました。BGMの『春の海』が、雰囲気盛り上げました。



1文字1文字に集中しています!



心を落ち着けて取り組んでいます!



筆の入り、払いを意識しています!



【1年生】 集中力を維持しました!



【2年生】 一人一人、丁寧な筆さばきでした!



【1年生の作品展示】



【2年生の作品展示】

【入賞者一覧】

校長賞	金澤 珠李 (2B)
教頭賞	山口 七聖 (2B)
金賞	神崎 敦司 (2B)
	武田 夏葵 (2B)
	田中 結月 (1A)
	山本 和典 (1A)
銀賞	吉澤 寧花 (2A)
	浦野 若奈 (2B)
	鵜崎 倫里愛 (1A)
	石井 杏奈 (1A)
銅賞	飯田 大翔 (2A)
	椎名 樹里 (2A)
	石井 凧音 (1A)
	沖野谷 岳弘 (1A)



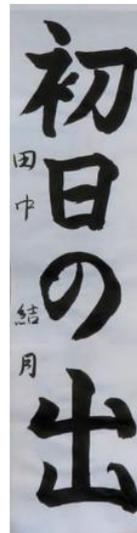
校長賞



教頭賞



2学年金賞



1学年金賞



3学期の抱負発表 ～目標設定、決意・覚悟、感謝～

1月10日（火）3学期始業式で、各学年代表生徒が3学期の抱負を発表しました。その中で、3年生代表生徒の発表内容を紹介します。

具体的な目標設定、決意と覚悟、親への感謝等が述べられ、とても素晴らしい内容でした。

（1・2年生代表生徒の発表内容は、学校ホームページに掲載中です。）



『3学期の抱負』

3年A組 大嶋 哲平

皆さん、明けましておめでとうございます。冬休みは楽しく過ごせたでしょうか。3年生は、日々休まずに勉強に励んでいたと思います。

さて、この3学期の抱負を発表することになり、卒業までの3ヶ月間をどのように過ごしていけば良いか、考えました。僕は、2つのことを特に力を入れて学校生活を送りたいと思います。

一つ目は、みんなと楽しく過ごすことです。同じ学年のみんなと過ごすのは、あと3ヶ月です。3月9日の卒業式で、それぞれ違う高校に進学予定です。休み時間など、これまでのように笑い合っ**て楽しみたい**と考えています。

二つ目は、**高校進学への準備**です。野球を頑張りたいので福島にある高校に進学します。ですから3月の終わりから寮に入ります。**身の回りのことを自分でやらなくてはいけなくなる**ので、洗濯など自分のことは自分でできるようにしていきたいです。練習に初めからしっかりついていけるように、**体づくりも続けて**いきます。また、自分が進学を決めた際に、**背中を押して送り出してくれる両親に感謝し、恩返しをするために精一杯頑張りたい**です。何かをやることに対して、**できるかどうかではなく、やってみることが大切**だと思います。**今しかできないことを精一杯やって**、胸を張って卒業できるように残りの中学校生活を充実させて過ごします。



【校長挨拶から】

○挨拶は人より先に！ 挨拶は大事だと何度も話してきました。元気な挨拶、さわやかな挨拶、場に応じた挨拶、二言挨拶。その中で、校長先生は「**挨拶は人より先に**」を今年の具体的な目標にしました。先生たちは「挨拶は生徒より先に」、生徒の皆さんは「挨拶は先生より先に」を心掛けていきましょう。

○努力の積み重ねについて 大村はま先生（1906～2005）が講演の中で、江戸時代の儒学者「新井白石」についての話をしました。白石の父親が我が子に、学問についての話をした内容です。

「白石よ、学問を初めから好きなものはいない。**努力を積み重ねていくことで、いつのまにか気が付いたら成果となって現れていた**。学問とはそんなものだ。例えば、米を箱から1日1粒、1日1粒取っていても減ったことは分からない。しかし、1粒でも減ったことに変わりない。そして、ある日ふと減ったことに気が付く。学問とはそういうもので、今日怠けたからといって、明日急に馬鹿にはならない。しかし、**米1粒の怠けが重なって、可能性、成長を止めてしまう。今日学習したからといってすぐに結果はでないが、その積み重ねが、ある日突然成果となってあらわれてくる**のである。」成果が出ないと、人間はあきらめがちになる。しかし、それは間違っている。**努力は、いつもすぐに報われるとは限らない。人間の成長は、努力し続けた結果として、突然あらわれる場合が多い**。あきらめずに続けることで、気が付いたら突然成果となってあらわれるものである。 ◎**努力は突然報われる！**

成木餅 ～五穀豊穰、無病息災～

自家製の**成木餅（なりきもち）**を3年生保護者（椿 佳也さん）から頂きました。正面玄関と3年生廊下に飾ってあります。 ※木の枝を稲に、餅を稲穂に見立て、豊作祈願や無病息災を願う年中行事



一つ一つ手作りで真心が入っています。



3年生廊下で『成木餅』と一緒に！

避難訓練 ～不審者対応～

1月12日（木）4校時に、不審者対応避難訓練を行いました。香取警察署生活安全課、郡駐在所の警察官の方々に御協力いただきました。不審者の校内侵入を想定の下、どのように行動したら安全に避難できるか、危険を回避する方法等について学びました。



不審者侵入の放送（合言葉）で、バリケード設置！



不審者を追いかけます。1階で対峙、緊張感が走ります。



香取警察署の方々から不審者対応の助言



町の安全を守って
くださっている
郡駐在所警察官



生徒会長からお礼の言葉
「いつ起こるかわからないと意識し、**他人事ではなく自分事としていきたい**と思います。」

【生徒の感想から】

「不審者情報（声と放送）によって、早くバリケードを作ることができた。」

「本当に不審者が教室に入ってきたので、動揺した。」

「いざ本当に不審者が侵入してきたら不安なので、**対応を想定しておくことが大事！**」

【指導いただいた主な内容から】

○バリケードを早く作れていた教室が多くてよかった。

○侵入された学級は、**臨機応変**にベランダから隣のクラスへ避難できてよかった。

○先生方の不審者への対応（**大きな声を出しながら追いかける**等）がよかった。

☆不審者に気付いたら、**大声を出して周りに知らせる**。

☆不審者が侵入してきたら、ベランダ等を使用して様々な方法で逃げる。

☆出入口だけでなく、窓の鍵もかける。

愛（ハート）のある町 神崎町

～寄贈 杉山 満さん～

町内在住の『スカイスポーツ神崎』代表 杉山 満 様が来校され、モーターパラグライダーから撮影したすばらしい写真を寄贈していただきました。神崎大橋上空からの撮影で、**交差する道路と町並みの風景が「ハート」のマーク**に見えます。ハートの中には、**神崎神社**があり、まさにブラボーな芸術作品です。杉山様から『**愛（ハート）のある町 神崎町**』と題名を付けていただきました。



写真は、正面玄関に飾らせていただきました。
ハートのイメージをクリアー板で表現！



第 68 回青少年読書感想文千葉県コンクール ～優良賞に北崎さん～

1 2 月 9 日（金）第 6 8 回青少年読書感想文千葉県コンクールで、北崎 花奈さん（3 年生）の作品が優良賞に選ばれましたので、紹介します。

『挑戦し続けることのすばらしさ』（図書名：江戸のジャーナリスト葛飾北斎） 北崎 花奈

「あと十年、いやせめて五年の生を。」葛飾北斎が、こんなにも力強い意志を持っていたなんて。好奇心が旺盛で、九十歳になっても衰えない現役浮世絵師としての創意的意欲に満ちていた彼は、私の思い描いていた北斎とは、全く異なっていた。少しでも長く生き、変化していく時代を描くことで、次の世代へ伝えたかったのだろう。歳を重ねても向上心があり、エネルギーはすばらしく、人生を絵に捧げている姿に、尊敬する。そして、生まれながらの天才だと思っていたが、彼が見えない所で日々努力を重ねていたのは、意外だった。私は、努力をしてもうまく行かず、諦めてしまうことが多くある。北斎だって努力をしていたのだから、私は努力なしでは、何事も成功しないとつくづく思った。私も北斎のように小学一年の時から続けているものがある。ピアノだ。私は、手が小さく筋肉も少ないため、曲によっては、大変苦勞してしまう。だから、練習を重ね、一曲一曲を仕上げるようにしている。また、苦手な教科やどうしてもわからない問題にあたった時、諦めてしまいたくなる。彼のようににはできないが、彼の前向きな姿から、私も頑張ろうと背中を押してもらった気がする。北斎は、立派なアトリエで優雅に作品を創っているイメージだったが、貧乏で引っ越しをくり返していた事にも衝撃を受けた。時に、自分の才能にねたまれたり、破門されたりと大荒れな生活で、家族の為に七味唐辛子を売って生計を立てていたのには、ギャップがあり驚いた。また、馬琴とお互いにぶつかりあって、自分の考えを貫き通した事によってコンビ解消になった。悲しさや寂しさと共に、彼らしさが感じられる一面だ。

また、人間関係は難しい事もあるが、自分への自信や強い信念がしっかりとしている事に、ぐっと胸が熱くなった。彼の人間味あふれる人柄に、知れば知るほど魅了されてしまう。世界中で有名な「富岳三十六景」は、一瞬で情景をとらえ、それを描く才能が発揮されている。さらに、日本らしさや誰にもまねが出来ない北斎らしさが表され、日本を代表する作品が私は好きだ。この本を読むにあたり、作品を見る機会が何度かあったが、「神奈川沖浪裏」は、二〇二四年の新千円札の図柄に採用される。破格な大きさの水しぶきは、目を圧するほどの迫力で見入ってしまい、その世界に入りこんでしまいたくなる。また、鎖国という閉ざされた中にあっても存在感があり、わずかに開かれた扉から、世界に目を向ける威力が印象的だ。特に、鳥の目から見たように、地形の正確さよりも視覚的な楽しさやわかりやすさを求めた「鳥瞰図」。今と違いドローンやコンピュータがない時代に、あんな構図が描けた北斎の想像力は、百七十年以上経っても感動を与えてくれる。森羅万象を見極め、空を飛んでみたい思いを感じる。

江戸のジャーナリストと言われた葛飾北斎。日々起きる新しい事にアンテナを張って追いかけて明らかにしていく、それがジャーナリスト。絵の持つ庶民の楽しみを超えて、目に映るあらゆるものが描かれ、目に見えない空想のものも描かれている。また、一つの事や場所に定まらず、好奇心を持ち新分野に進んだ姿勢そのものがジャーナリストなのだ。そんな彼の作品は、日本だけにとどまらず、ゴッホやモネなどの海外の画家達にも影響を与えた。さらに、ロシアでも北斎の魅力に気付いて、作品の紹介に力を尽くしていた者がいたのにも驚いた。栄光や名誉にひたるよりも、常に探究心を持ち続けて新しい事に挑戦し続けたから、世界に影響を与えたのだろう。もし、令和の時代に彼が生きていたら、今の世の中をどのように描くだろうか。考えるだけでも、わくわくする。きっと、みんなの想像を超え、ユニークな作品を描きそうだ。また、世界中の平和を願うような、誰からも愛される作品を描くのではないかな。

北斎が伝えたかった事は、何だろうか。絵は言葉がなくても、見る事で多くのさまざまな人に伝えられる。その絵により、世界中の人が感動したり、癒されたり、刺激を受ける事ができる。浮世絵の美しさと共に自身の生きた時代を次世代へ伝えたかったのではないかな。また、「継続は力なり」と「人生百年時代」を先取りした国際派の絵師だと思う。これから何年先も日本の浮世絵師として、北斎の世界観を知ってもらいたい。時代が変わっても、世界中の人に愛される北斎の作品は、日本の誇りだ。

これから令和は、私達が創り上げていく時代だ。北斎のように、好きな事をやりたい事を極め貫くのは簡単ではないが、諦めるのではなく、挑戦する気持ちを持ち続けたい。そして、思いきりの足りない私だが、北斎みたいに思いきって行動したい。行動することで自分の選択肢を増やすことができる。自分の一度きりの人生を満足させるために、自分の世界を広げてみよう。

【今後の主な行事予定】

- 2 月 8 日（水）～千葉公立高校入学選抜願書提出 ※1 5 日（水）～志願・希望変更
- 1 4 日（火） 家庭教育学級合同閉級式、町 P T A 連絡協議会実行委員会
- 1 5 日（水） 第 2 回学校評議員会 2 0 日（月）3 年生自宅学習
- 2 1 日（火）、2 2 日（水） **千葉公立高校入学選抜、1・2 年期末テスト**
- 2 2 日（水） 新入生体験入学
- 3 月 2 日（木） **3 年生を送る会**、学年末保護者会、P T A 監査・新旧役員会
- 3 日（金） 千葉公立高校入学選抜入学許可候補者発表
- 9 日（木） **第 7 6 回卒業証書授与式**

